

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第3回 第八期生涯学習推進協議会
事務局（担当課）		学習・スポーツ課
開催日時		令和6年9月18日（水） 14時00分～16時00分
開催場所		としま区民センター 503 会議室
議 題		1. 開会 2. 重点取組みについて 3. 生涯学習推進ビジョン骨子（案）について 4. 閉会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 2人
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委 員	高井正会長、中上亜樹副会長、齋藤知明委員(オンライン参加)、 林田萌郁委員、荘司哲夫委員、鈴木晴美委員、野瀬博委員 <div style="text-align: right;">計7名</div>
	事 務 局	学習・スポーツ課長、学習・スポーツ課職員3名

審 議 経 過

1. 開会

2. 重点取組みについて

＜事務局より説明＞

・現ビジョン5年間を振り返り、さら発展すべき点、また強化すべき弱みを「3つの重点取組み」として取り上げる。

1. 子ども・若者の学習支援
2. 多文化理解の促進
3. 生涯学習施設の機能強化

・生涯学習の既存事業において、3つの重点取組みの視点を意識することで、事業全体を強化したい。

□子ども・若者の学習支援について

- ・高齢者だけをターゲットにしていたわけではないが、結果的に高齢者世代が活動の中心となっている現状であり、重点課題として若者への取り組みを強化したい。
- ・高齢者の方が学ぶことも良いことなので、担い手が高齢化していることが課題ではなく、子ども・若者の参加が不足していることが課題と記載すべきである。
- ・青少年団体の活動内容としては、地域文化創造館では空手などの運動系が、みらい館大明では演劇の団体が多い。
- ・地域文化創造館では、夏休みに親子向けの講座がある。また、千早地域文化創造館では、ぷらり U30 という若者向けの講座を展開している。
- ・若者の意見として、バスケットボールができる場所が欲しい、落ち着いて勉強する場所が欲しい（例：板橋中央図書館、武蔵野プレイス）という声がある。
- ・以前の児童館機能のうち小学生は子どもスキップへ、中高生の居場所として中高生センタージャンプができた。中高生センタージャンプは2カ所あり、中高生が自主的な活動をする施設である（事務局より）。
- ・地域文化創造館と中高生センタージャンプなどの他施設が連携できるとより若者の学びの支援が進むのではないか。
- ・どうしたら若者が集ってくれるのが課題。若者は学校で既に学んでいるため、自分に学びが不足している自覚はなく、学びの場をセッティングしても来てくれない。若者は求めているのは“自習できる場”。必ずしも働きかける学習支援ではなく、場をつくることで自然と集ってくれる。例えば、巣鴨淑徳高校の学生は、大正大学の図書館を活用して自習やグループワークをしている。

- ・集まった若者が自然とグループ化して活動が広がる例もあるだろう。
- ・西東京市の田無公民館では、施設のロビー大規模改修に向けての意見を出し合う講座があった。外部からロビーに自習スペースの設置を要望する声があり設置されたが、自習スペース利用者からは、ロビーで交流している利用者がうるさいという苦情が出た。ロビーの趣旨を理解するよう職員が説明しているとのこと。自習スペースの設置については丁寧に考えるとともに、自習スペースを利用する若い世代へ働きかけるロビーワークが大切ではないか。ロビーワークの担い手の確保は重要。
- ・新潟市では、公民館が地元の公立高校の生徒を対象にしたコミュニティコーディネーター育成講座を開催している。内容としては、全10回程で、実際に地域の方の意見を聞き取り、地域課題を分析・プレゼンするものである。
- ・地域文化創造では、ロビーがある施設とない施設がある。ある施設では地域に開かれている。
- ・みらい館大明でも自由に使えるスペースを用意している。
- ・以前の豊島区中央図書館には大きな自習室があった。今の図書館は窓際にあるのみだが、若者がたくさん利用している。
- ・通信制の学校では、授業の中で自分の好きなことを学べる時間がある。不登校の子でも興味のあることを学ぶと意欲が高まる。

□ 障害者の学習支援について

- ・豊島区の生涯学習では、月2回日曜日に障害者の学びの場を担保する事業を実施している。(事務局より)
- ・サンシャインシティでチャレンジ雇用が行われている。
- ・特別支援学校と民間企業がタイアップして、雇用促進を狙う活動がある。特別支援学校との連携を検討できると良い。

□ 生涯学習施設の機能強化

- ・「文化・学びのハブ」の意味としては、生涯学習施設だけで生涯学習を実施するのではなく、施設の機能として、様々な施設や団体が連携しながら活動できる状態を目指し、つなげていく機能を強化していくというイメージである。
- ・裏付ける根拠データはないが、家庭教育推進員へのアンケートや、担当職員の感覚として、生涯学習施設の認知度が低いと感じている。(事務局より)
- ・地域文化創造館は若者には入りづらい雰囲気、分かりづらい場所にある。高齢者が立ち寄る施設と思われがち。
- ・学校では外部講師を雇って授業以外のことを教えている(防災や選挙のこと等)。そういった学びを地域で提供できると良い。例えば、地域の外国人との交流による多文化理解の学びの場の提供がある。

- ・生涯学習施設と学校の在り方のひとつの例として、西東京市では、“まちなか先生”というものがある。公民館がいくつかの講座を用意し、学校はその中から自由に選択できるものである。学校以外の学びを公民館がコーディネートしており、学校からの評判がいい。
- ・西東京市では、公民館で不登校児の親向けの講座を実施しており、それをきっかけに活動が広がっている。生涯学習施設は地域の課題を解決するためにあるので、不登校対策も含めて、生涯学習施設として何ができるのか検討しながら取組み続けることが大切である。
- ・としま子ども WAKUWAKU ネットワークが様々な自治体が集まる子ども向けのサミットを開催しているとの報道を聞いた。
- ・としま子ども WAKUWAKU ネットワークは、不登校対策として、西池袋中学校に放課後誰でも集えるスペースを運営している。そういった仕組みを生涯学習施設で行うのはひとつの案と考える。(事務局より)

3. 生涯学習推進ビジョン骨子(案)について

□評価について

- ・第4章に記載される評価事項は、第7期で議論した評価の議論をまとめたものであり、個人の学びが区政に与えるインパクト評価までを示したものである。第1～3章と性質が違うものなので、掲載方法は検討が必要である。
- ・前期の生涯学習推進ビジョンが具体的な事業を掲載しておらず評価が難しかったことから、次期ビジョンの重点取組みでは、具体的な事業とそれを振り返ることができるような評価指標を入れ込む。
- ・各重点取組みに示されている5年後の目指す姿がひとつの目標値になっているので、達成度が分かるような指標を設定した方がいい。
- ・5年後の姿は共通認識が持てるよう、より具体的に記載する必要がある。
- ・個人の評価だけではなく、本ビジョン全体の評価を掲載すべきではないか。
- ・子ども・若者の学習支援において、“将来的な社会教育人材”とあるが、具体的にどの年齢を指しているのか示せると良い。
- ・生涯学習の重点ターゲットである青年期と成人期は、具体的にどの年齢を示しているのか、区として設定したほうがいい。

□具体的な事業について

- ・事務局としては、具体的な事業を掲載することで評価しやすいものにした考えである。
- ・ビジョンはあくまで大まかに設定し、具体的な事業はとしま学びスタイルに記載してはどうか。ビジョンは大きな方向性だけ合致していれば良く、細かい見解の違い

が生じるのは良いのではないか。

- ・施設を建て替えることは難しいが、多額の予算をかけることなく、看板ひとつでもいいので、ターゲットとなる層が入りやすい雰囲気づくりが大切である。
- ・最近の若者は興味のないことに触れる必要のない環境にあるため、興味のないことでも目に入る導線の工夫など、仕掛けをつくれると良い。
- ・例えば、「生涯学習施設の入りにくさを改善」や「自習している若者への働きかけ」などが具体的な事業としてあげられる。

4. 閉会

会 議 の 結 果	<ul style="list-style-type: none">・重点取組みは下記の3つとする。<ol style="list-style-type: none">1. 子ども・若者の学習支援2. 多文化理解の促進3. 生涯学習施設の機能強化・評価指標について学識経験者と事務局で改めて整理を行う。
-----------	--

提出された資料等	<p>〈配布資料〉</p> <p>資料 No. 3 - 1 重点取組みについて</p> <p>資料 No. 3 - 2 生涯学習推進ビジョン骨子（案）について</p>
----------	---